



VOL. 101
11年09月
今月の特集



私の履歴

その①

私の履歴 (その① 高校生まで)

「則武新聞」の原稿も早いもので100回を超えてしまいました。今回は私の生い立ちなどを書いてみようかと思えます。

私は昭和30年10月29日生まれ。九紫火星・さそり座です。未熟児だったそうで、夜泣きがひどくて母を困らせたようです。父と母は岡山県出身ですが、父が上京して新横浜まで歩いて20分くらいのところに居宅を構えておりましたので、私は横浜で生まれ育ちました。父は苦学して東京に単身上京して会社員として家庭を築き、昨年他界しました。まじめな謹厳な人でしたが、私が生まれた時には近所中に「どう?かわいいでしょう」と抱いて見せて回ったそうです。私は二人兄弟で、今は妹が母と一緒に2世代住宅で住んでくれています。家族全員の血液型が「O型」のためか結束が強いと周りから言われます。

幼稚園の時には幼稚園の友達と併設されていた女子高校の授業中に忍び込み、女子高生の受けを狙って教室のドアを突然開けてびっくりさせたりしておちゃめに遊んでいました。横浜とはいっても田舎でしたので、わんぱく時代は昆虫採集や田んぼでの泥だらけの遊びを楽しむ文字通りのガキ大将の一人でした。ある日メアリー・ポピンズの映画をみて、まねをして空を飛べるつもりで傘をさしたまま川に飛び込んだそうですがさいわいにして溺れませんでした。また旅行中に熱海でタクシーにはねられて何メートルも飛ばされたこともあります。周りの人によく死ななかつたと言われました。私は運が強いのかも知れません。しかし、この時に頸椎を損傷したようで、後年ひどい肩と首の痛みが出現するようになり、今も頸椎症のために肩こり・頸部痛・しばしば両腕のしびれに悩まされています。

中学・高校は鎌倉にある「栄光学園」に片道2時間かけて通学しました。6年間一貫教育のイエズス会という修道会が設立した学校で、私はキリスト教徒ではありませんが、教師の半数は神父で、外国人の先生も多数おられました。そのためか外国人アレルギーのようなものが吹っ飛んでしまったように思います。もともと私はスポーツ好きで中学・高校のクラブ活動では野球部に入りました。ピッチャーでしたが、中学の時には球が速いだけの全くのノーコン(コントロールが悪くて四球ばかりだす)ピッチャーで、試合にもあまり勝てませんでした。1試合に18個の四球と18個の三振というハチャメチャな記録も作りました。(もちろんその試合も負けました)それでも懲りずに左腕だったこともあり、テレビで「巨人の星」の星飛雄馬や阪神タイガースで活躍していた江夏の投球フォームなどを熱心に研究していました。私の高校は中学と高校が一緒のグラウンドで練習するため、高校に進んでからも硬式野球部がなく軟式野球をしていました。高校生になってからは少しはコントロールもよくなり、試合でもしばしば勝てるようになり、高校1年の夏の大会では準優勝、2年の春はベスト4に進出しました。球速だけは速かったので日大藤沢高校の軟式野球部にノーヒットノーランをしたことがあります。今でも野球部や仲の良かった同級生と時々集まって交流しています。中学から高校までの間はのんびりしたよい環境だったと思ひ出されます。

偶然にも中学・高校時代に「北杜夫」「森鷗外」「クローン」など医者から作家になられた方の小説を読むことが多かったためか、好きだったウルフ神父という先生の影響か判りませんが、医学部に進学したいと強く思うようになっていました。野球ばかりして成績もそれほど良くなかったため父が反対して、ウルフ先生にわざわざ私の家までお越しいただき、父を説得してもらってなんとか医学部受験の許可を得ることが出来ました。それもとても懐かしい思い出です。(次号に続く)

もう一度、災害に備えて点検しましょう (看護師 出尾)

9月1日は「防災の日」です。災害時に必要な物品は揃っていますか? 今年、3月11日に東日本大震災が起き、東北地方ほどではありませんでしたが、茨城県も被災地となりました。

被災直後、水や電気が止まってしまう食事はカップ麺や菓子類でしのいだ方も多く、血糖値の上昇をきたし困ったという話をよくお聞きしました。災害時の準備がいかに大切であるか皆さんも実感されたことでしょうか。

万が一の時のために、飲み薬やインスリン注射を2週間分(可能であれば30日分)は用意しておきましょう。薬(インスリンも含む)の中断によって高血糖が持続して、体調が急変することもあります。

災害時や旅先で医療機関に受診することも考え、保険証とお薬手帳は常に鞆に入れておくことをお勧めします。また旅行に行くときも必ず予備薬を持参するようにしましょう。

インスリンの保管は常温で大丈夫です。保管のための保冷庫などは必要ありません。ただし車の中や直射日光が当たって高温になる場所に放置すると効きが悪くなってしまうことがありますので、注意してくださいね。

このような注意をされておくと、万一の災害にあわてずに対処できるのではないかと思います。また旅行の時にも安心です。準備をしっかりとって楽しい旅行を満喫して下さい。



「則武新聞」も100号も書くとは題材がなくなってきました。「院長の人生の履歴を載せてみてはどうか」と言われ、今回は新企画としてやってみましたが、いかがでしたでしょうか? 「防災の日」に改めて災害時の点検を病気についても是非行ってください。発行日: 2011年9月1日 発行責任者: 医療法人社団 憩樹会 則武内科クリニック 院長 則武昌之



休診のお知らせ

* 9月24日と28日の午後は則武院長は休診で永瀬先生となります。

御迷惑をお掛けしますが宜しく御了承ください。

9月

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24*
25	26	27	28*	29	30	

10月

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					